

インフルエンザ経鼻ワクチン（フルミスト）について

昨年から注射によるインフルエンザワクチンに加えて

2歳から19歳未満の方は経鼻ワクチン（鼻から噴霧するタイプ）の使用も可能となりました。注射によるワクチンは不活化ワクチンというタイプですが、この経鼻ワクチンは弱毒生ワクチンです。2003年にアメリカで認可され、10年以上の実績があり、2011年からはヨーロッパでも認可されています。

メリット

毒性を弱めたインフルエンザウイルスを鼻粘膜に感染させて免疫をつけるため、予防効果は高いと言われています。ただワクチンに使用されるウイルスの種類と流行するウイルスの種類が適合しない場合のシーズンは効果が弱いこともあるようです

- ・痛くない
- ・予防効果が長い→約1年くらいの効果があるとされています
- ・接種回数が1回

デメリット

- ・生ワクチンなので風邪症状のような副反応（発熱、鼻汁、咽頭痛など）が出ることがある
- ・接種対象者が限定される
- ・注射のワクチンより費用が高い

経鼻ワクチンが接種できない方

- ・明らかな発熱（37.5℃以上）がある人
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ・本剤の成分（ゼラチンなど）に対してアナフィラキシーを起こしたことが明らかな人
- ・明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する人、および免疫抑制をきたす治療を受けている人
- ・妊娠していることが明らかな人
- ・その他予防接種が行うことが不適当な状態にある（鼻炎症状（くしゃみ・鼻汁・鼻閉）、鼻症状（鼻汁が多い、鼻閉）が見られる、喘息症状がコントロールできていない等）人

また生ワクチンのため、同居家族や親族（接種者と関わる）などに免疫機能に低下のある方、免疫抑制剤を使用されてる方、妊娠や授乳されている方がおられる場合はおすすめてできません。

経鼻ワクチンの生産量は注射のワクチンよりも少ないので希望される全ての方に接種はできない可能性があります。2歳から19歳未満の方はメリット、デメリットを理解いただいて例年の注射によるワクチン接種をされるか、経鼻ワクチンを接種されるかの検討をお願いします。昨年は2-3歳の低年齢児で接種を希望される方がありましたが、注射でなくても体を抑えられたり何をされるかわからない怖さによると思われるかもしれませんが、泣いてしまい体動にて接種が難しいケースが見受けられました。また鼻腔に噴霧するワクチンなので接種当日に鼻汁など鼻症状のある方はワクチンの効果が期待できないため接種できないとご案内していましたが、当日鼻症状があるのに受診され接種日の変更をお願いすることになったケースもありました。フルミストの接種は体を抑えられても問題無い方（または泣かずに接種できる方）で、体調の良い日に接種していただくようお願いします。